

英語

(15) 英語

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して活動を行う等、主体的・対話的で深い学びの実現を図る工夫 (2) 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 視聴覚教材やコンピュータ等を活用し、学習活動の充実を図る工夫 (4) 生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための題材の工夫 (7) 他の教科や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	今日的課題への配慮

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について 文法をコミュニケーションに結びつけるために、Preview (映像での気づき) →Story/Scene (対話文・文法) (→Read and Think (本文・発信) *2・3年生) →Unit Activity (統合) の構成となっている。 文章の読み方を身につけられるよう、三段階読みが紹介されている。 〔例〕2年 (P15、P27、P41 等)</p> <p>●着眼点(2)について テーマ別の自己表現活動として、技能統合的な言語活動 Stage Activity が各学年3回設定されている。ペアやグループで協働的に取り組めるよう工夫されている。 〔例〕3年 (P48～50、P84～86 等)</p> <p>●着眼点(3)について 本文や単語の音声、Preview のアニメーションと音声が見聴できるウェブページにつながる二次元コードが付されている。</p> <p>●着眼点(4)について 各単元のはじめに、題材と活動に関する Goal、単元の最後には CHECK が示されている。 〔例〕2年 (P35、P44 等) 巻末には CAN-DO リスト (各学年 20 項目) が示されている。 〔例〕1年 (巻末)</p>	<p>●着眼点(5)について 第3学年のUnit4 Unit Activityに「いざというとき役立つ標識」が設定されている。 〔例〕3年 (P66)</p> <p>●着眼点(6)について 異なる文化の発想や考え方を知り、広い視野でものごとを捉える力等を育成するため、地球環境、伝統文化、人権等の題材が設定されている。</p> <p>●着眼点(7)について 理科や社会科、家庭科等他教科で学んだことを英語の視点で学ぶページが各学年1～2回設定されている。 〔例〕1年 (P122～123) 小中の接続については、第1学年の冒頭にUnit0が設定され、小学校での活動やアルファベット、文字の書き方の要点をまとめ、小学校での学びを生かせるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P4～8) 小学校の既習事項にマークをつけ、小学校で慣れ親しんだ表現を思い出せるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P12 等)、2年 (P9 等)、3年 (P9 等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
<p>9 開隆堂</p>	<p>●着眼点(1)について 実際の場面で英語を使ってコミュニケーションできる力を育成するために、Scenes（導入・活動）→ Think（本文）→ Retell（再話）→ Interact（やり取り）の構成となっている。 各単元に2～3カ所、Try コーナーがあり、ペアでのスモールトークテーマが記載されている。 〔例〕 2年（P9、P11、P12等）</p> <p>●着眼点(2)について 自分の言葉として英語を使う力を育てるため、協働学習で学び合う技能統合的な言語活動Our Projectが各学年2～3回設定されている。 〔例〕 3年（P39～43、P85～89等）</p> <p>●着眼点(3)について 本文、リスニング問題の音声が見聴できるウェブページにつながる二次元コードが、見開きページの右上に付されている。</p> <p>●着眼点(4)について 各単元のはじめにGoalが示されている。Our Projectの活動を軸とした指導計画が立てやすい構成になっている。 〔例〕 2年（P4～5、P7等） 巻末にはCAN-DOリスト（3年間で59項目）が示されている。 〔例〕 1年（P156～159）</p>	<p>●着眼点(5)について 3年生のOur Projectに「あなたの町を世界にPRしよう」が設定されている。 〔例〕 3年（P85～89）</p> <p>●着眼点(6)について 題材は、日本から始まって世界に目を向けることができるよう、日常生活だけでなく、環境や平和、人権等が設定されている。</p> <p>●着眼点(7)について 題材に現代的課題を扱い、教科横断的な視点で学習することができる。 〔例〕 1年（P69～73等） 小中の接続については、第1学年の冒頭にGet Ready 1～4、PROGRAMOが設定され、小学校で学んだ語句や表現、活動等、既習事項を確認できるよう工夫されている。 〔例〕 1年（P7～19） 言語材料導入ページScenesにおいて、言語の使用場面を示すなどし、小学校と同じ学習過程になるよう工夫されている。 〔例〕 1年（P22等）、2年（P8等）、3年（P8等）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
15 三省堂	<p>●着眼点(1)について 知識及び技能を習得し、思考力、判断力、表現力等を育成するために、GET(文法や文構造)→USE Read(本文)→USE Speak(話す)/USE Write(書く)の構成となっている。 USE Writeでは、文章の構成方法についての記載があるなど工夫されている。 〔例〕2年(P58～59等)</p> <p>●着眼点(2)について 技能統合的な言語活動 Project が各学年3回設定されている。想像力をかき立てるテーマ設定や活動の中に調べ学習が取り入れられるよう工夫されている。 〔例〕3年(P32～33、P84～86等)</p> <p>●着眼点(3)について 本文や語句の音声、話すことの活動のモデル動画が視聴できるウェブページにつながる二次元コードが付されている。</p> <p>●着眼点(4)について 単元の導入として、題材や場面、文法や言語活動が確認できるように工夫されている。 〔例〕2年(P39、P51等) 巻末にCAN-DOリスト(各学年13項目)が示されている。 〔例〕1年(巻末・後①)</p>	<p>●着眼点(5)について 各学年のProjectに、住んでいる地域の魅力等について書いたり、ディスカッションしたりする活動が設定されている。 〔例〕1年(P110～111)等</p> <p>●着眼点(6)について 題材を通して、現実の様々な課題に対応できる人材を育てるため、異文化理解、環境、物語等が設定されている。</p> <p>●着眼点(7)について 理科や社会科等、他の教科で習得した知識・技能と外国語科での学びを結びつけるよう題材が工夫されている。 〔例〕2年(P91～97等) 小中の接続については、第1学年の冒頭にHello, Everyone!、Starter 1～3が設定され、小学校で学んだことばの使用場面や語句・表現、アルファベット等を振り返ることができるよう工夫されている。 〔例〕1年(P6～13) 小学校での学びを振り返り、身近なことについて聞いたり話したりできるよう工夫されている。 〔例〕1年(P15～64)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 基礎・基本から応用へ確実に学びを積み上げるために、Part 1, 2 (対話文・文法) →Part 3 (叙述文) →Review (要約) →Task (統合) →Grammar (文法のまとめ) の構成になっている。</p> <p>即興で話す力を身につけるために、Activities Plus が設定されている。 〔例〕 2年 (P129～139) 等</p> <p>●着眼点(2)について 既習の知識や表現を生かし、技能統合型の言語活動として、グループ等で協働しながら課題解決に取り組む Project が、各学年 2～3 回設定されている。 〔例〕 3年 (P40～41、P78～79 等)</p> <p>●着眼点(3)について 本文と Activity Plus のやり取りや単語の音声が見聴できるウェブページにつながる二次元コードが付されている。</p> <p>●着眼点(4)について 各 Part のはじめに Goal が、また、単元の最後に振り返りの視点が示されている。 〔例〕 3年 (P58、P60、P65 等) 巻末に CAN-DO リスト(各学年 12 項目) が示されている。 〔例〕 1年 (巻末・付録)</p>	<p>●着眼点(5)について 2年生の Writing では、「My Town」という文章を書く活動が設定されている。 〔例〕 2年 (P54)</p> <p>●着眼点(6)について 英語に対する興味・関心を深めながら発信する力を身につけられるように、身の回りのことから、学校・社会・世界へと広がる話題をとりあげている。</p> <p>●着眼点(7)について 社会科や理科等との連携や学校行事・活動との連携がしやすいよう、単元の配置が工夫されている。 〔例〕 1年 (P111～119 等) 小中の接続については、第 1 学年の冒頭に Springboard 1～4 が設定され、小学校で慣れ親しんだ表現について、音声を中心に、効果的に復習できるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P4～9) 小学校で学んだ活動場面や話題が、少しずつ発展しながら随所に設定されることで、学習を積み上げることができるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P12 等)、2年 (P18 等)、3年 (P19 等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
38 光村	<p>●着眼点(1)について 本文は、3年間ひと続きのストーリーで、4人の中学生の成長物語となっている。単元は、「できるようになること」で貫き、Part 1、2、3（本文、文法、練習）→Goal（発信）で構成されている。即興性をつけるため、巻末に帯教材が設定されている。 〔例〕2年（P128～135、①～⑧）等</p> <p>●着眼点(2)について 学んだ知識や技能を使いながら、技能統合型の言語活動 You Can Do It!が各学年3回設定されている。グループでの協同学習による活動も設定されている。 〔例〕3年（P48～49、P86～87 等）</p> <p>●着眼点(3)について 本文の音声やストーリーのイラストなどが視聴できるウェブページにつながる二次元コードが付されている。</p> <p>●着眼点(4)について 各単元のはじめに Goal が、最後には振り返りが示されている。 〔例〕2年（P51、P59 等） 巻頭に3年間の目標、巻末には学年のCAN-DO リスト（各学年10～15項目）が示されている。 〔例〕1年（P4～5、P174～175）等</p>	<p>●着眼点(5)について 2年生の You Can Do It!に「わが町観光プランをおすすめしよう」が設定されている。 〔例〕2年（P48～49）</p> <p>●着眼点(6)について 題材は、身の回りに関することから、少しずつ社会的な話題へと、生徒の関心が自然に広がるように、安全・防災、教育、福祉等が設定されている。</p> <p>●着眼点(7)について 英語で学んだ知識を、社会や道徳、美術等他教科の学習と結びつけて学べるように工夫されている。 〔例〕3年（P65～73 等） 小中の接続については、第1学年の冒頭に Let's Be Friends! 1～7が設定され、小学校での学習事項である語句と表現できる活動を取り入れる等工夫されている。 〔例〕1年（P6～19） 小学校での既習事項が分かるよう、巻末では語句と文法にマークをつける工夫がされている。 〔例〕1年（P158～168、P173）、2年（P154～173）、3年（P148～172）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
6 1 啓林館	<p>●着眼点(1)について 生徒が主体的に関わりながら学び、段階を追って、無理なく学習できるように、Part 1、2、3 (本文・文法) → Read & Think (読解) (→ Express Yourself (発表) → More Information (補足資料) * 2・3年生) の構成になっている。 〔例〕 2年 (P41、P71 等)</p> <p>●着眼点(2)について 自ら学び、考え、判断し、行動する力が養えるように、複数の単元で学んだことを生かす技能統合型の言語活動 Project が、各学年 2～3回設定されている。 〔例〕 3年 (P46～47、P90～91 等)</p> <p>●着眼点(3)について 語句と本文の音声が見聴できるウェブページにつながる二次元コードが付されている。 文字の表示や語句の和訳の表示・非表示を切り替えることもできるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(4)について 各単元のはじめに、各 Part 等の目標が示されている。 〔例〕 2年 (P31 等) 巻末に CAN-DO リスト (各学年 15 項目) が示されている。 〔例〕 1年 (P150) 等</p>	<p>●着眼点(5)について 3年生の「Lively Towns in Japan」に、自分の住む地域を紹介する活動が設定されている。 〔例〕 3年 (P75～85)</p> <p>●着眼点(6)について 生徒たちの興味・関心や「読んでみたい」を引き出すために、実在の人物や実際の出来事が題材として設定されている。</p> <p>●着眼点(7)について 国語や社会、理科等様々な教科の要素を多くの単元で取り入れるよう工夫されている。 〔例〕 3年 (P49～59 等) 小中の接続については、第1学年の冒頭に Let's Start 1～7 が設定され、小学校で耳から学習した英語を文字と結び付ける等、小学校の復習ができるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P8～21) また、小学校で学習した語彙や表現をもとにスパイラルな学習ができるよう題材が工夫されている。 〔例〕 1年 (P34 等)、2年 (P45 等)、3年 (P18 等)</p>

2 使用上の便宜

項目	発行者の番号・略称	総ページ	(1)内容配当の分量							(2)教材・資料等の分量								
			聞くこと	読むこと	話すこと・やり取り	話すこと・発表	書くこと	技能統合	その他	年の学校との接続・前学	文法説明(ページ数)	学習のスキル(ページ数)	二次元コード数	(単語数(発信語彙・太字))	(単語数(受容語彙・細字))	単語数(固有名詞等、注釈付き)	CAN DORリスト(ページ数)	三重県に関わる記述等
2 東書	1年	169	42	25	17	5	12	12	56	5	10	4	75	253	206	74	2	—
	2年	161	29	45	10	5	12	16	44	2	7	3	65	165	282	66	2	—
	3年	157	26	40	8	5	12	15	51	2	6	3	56	93	319	91	2	—
9 開隆堂	1年	171	35	34	21	4	9	15	53	13	10	0	37	174	285	43	4	—
	2年	167	18	39	18	8	11	15	58	0	8	1	35	116	434	43	4	—
	3年	159	16	46	11	9	10	13	54	0	7	1	30	32	465	54	4	—
15 三省堂	1年	184	36	33	24	8	20	6	57	6	9	2	63	249	238	96	1	—
	2年	176	26	44	14	8	12	11	61	2	7	2	57	194	347	227	1	—
	3年	184	26	55	11	8	14	9	61	2	7	1	52	106	391	184	1	—
17 教出	1年	165	43	38	23	8	8	4	41	7	12	2	14	200	211	60	2	—
	2年	169	38	49	19	6	7	6	44	5	10	2	14	191	261	170	2	—
	3年	169	28	58	14	7	8	6	48	5	6	2	12	74	279	300	2	—
38 光村	1年	184	56	27	26	9	16	6	44	21	7	5	66	432	180	23	2	—
	2年	184	43	36	24	11	12	6	52	1	9	6	65	324	332	61	2	—
	3年	184	38	40	20	12	10	6	58	1	4	6	60	176	385	51	2	—
61 啓林館	1年	153	29	26	23	8	17	9	41	16	10	1	41	392	285	37	1	—
	2年	161	28	35	17	11	13	6	51	0	6	0	41	196	422	52	1	—
	3年	145	22	33	13	8	10	8	51	0	6	0	33	67	344	35	1	—

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の大きさはA4判で、特殊な糊を使って製本し、堅牢であり、再生紙と、植物油インキを使用している。 専門家による校閲を受け、カラーユニバーサルデザインの観点から配色およびデザインを検証している。 主に第1学年で、第2線と第3線の間の幅をやや広げた4線と手書き文字に近いユニバーサルフォントを採用している。 二次元コードは、各単元の「読むこと」「聞くこと」のほぼすべてのページに配置されている。
9 開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の大きさはAB判で、造本は丁寧で堅牢であり、環境に配慮した用紙やインキを使用している。 専門機関による校閲により、多くの人が見分けやすいカラーユニバーサルデザインによる配色がされている。 文字は極力大きく、小学校英語の教科書でも使われている手書き文字に近いフォントを採用している。 二次元コードは、各単元の「読むこと」「聞くこと」のほぼすべての見開きに配置されている。
15 三省堂	<ul style="list-style-type: none"> 教科書はAB判で、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙と植物油インキを使用している。 紙面はカラーユニバーサルデザインで、識別しづらい色使いは避け、形や記号等補助的な手がかりを設けている。 読みやすく書きやすいユニバーサルデザインフォントやオリジナルのブロック体フォントを使用している。 二次元コードは、各単元の「読むこと」「聞くこと」のほぼすべてのページの上部に配置されている。
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> 教科書はAB判で、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用している。 カラーユニバーサルデザインに基づき配色をしている。専門機関による審査を受け、認証マークを取得している。 見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用している。 二次元コードは、各単元の最初のページと、Activity Plusの項目ごとに配置されている。
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> 教科書はAB判で、環境に配慮した、鉛筆で書きこみやすい質感の紙と植物油インキを使用している。 専門家による校閲を受け、ユニバーサルデザインの観点に立った編集とデザインとしている。 入門期において、生徒が学習しやすい4線の幅に対応した、新しいアルファベットのフォントを使用している。 二次元コードは、各単元の「読むこと」「聞くこと」のほぼすべての見開きの右上に配置されている。
61 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> 教科書はAB判で、アレルギーや環境に配慮し、植物油インキと再生紙を使用している。 色覚特性のある生徒等などにも分かりやすいよう、判別しやすい配色やシンプルなイラストを扱っている。 中接続ページでは、小学校英語で採用している4線やユニバーサルデザインフォントを使用している。 二次元コードは、各単元の本文の右上に統一して配置されている。

3 その他

今日の課題への配慮	
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・題材や人物の出身国は多様な国々から設定し、それぞれの国の良さや違いを感じたり、言語や文化に対する理解を深めるよう工夫している。(例：1年Unit9 Think Globally, Act Locally) ・日本の伝統文化の良さを世界に発信したり、外国発祥ながら日本独自の発展を遂げた料理などを紹介し、新たな視点から自国への理解を深めるよう工夫している。(2年Unit2 Food Travels around the World)
9 開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活だけでなく、自然環境、平和や人権などの現代的課題を扱い、多様なものの見方や考え方について、思考・判断を促す題材を工夫している。(例：2年 Program6 Live Life in True Harmony) ・ロボットや書道などの題材を通して、自国の伝統と文化を尊重するとともに、他国も尊重し、国際社会に寄与する意識を育てる題材を工夫している。(例：1年Program4 Let's Enjoy Japanese Culture)
15 三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・漫画やアニメなど日本文化の海外での人気の理由を探りながら、文化の変化等について考える工夫がされている。(例：3年Lesson4 The World's Manga and Anime) ・インドからの転校生の話を通して、インドについて知り、日本との共通点や相違点を学び、相互理解を深める工夫がされている。(例：1年Lesson3 Our New Friend)
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を尊重し、自国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う工夫がされている。(例：2年Lesson6 Castles and Canyons) ・地球や人々の今とこれからを見つめる題材をもとに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う工夫がされている。(3年Reading2 My Prayer for Peace)
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の多様な文化と人々についての知識を深め、多様性を尊重する態度を養う工夫がされている。(例：全学年 World Tour) ・生命を尊び、また国際社会の平和と発展に寄与する態度を養い、世界への視野を広げ、国際理解を深める工夫がされている。(例：3年Unit1 School Life Around the World)
61 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・家族旅行の場面等を通して日本の伝統と文化に触れ、それらを尊重する態度を養えるよう工夫している。(1年Unit9 冬休みの思い出) ・外国の様々な話題を取り上げて、日本との違いや共通点に気づかせることで、国際理解・異文化理解を深める工夫がされている。(2年Unit2 Traveling Overseas)